登録番号　環文-08

環境経営レポート
2021

（対象期間：2020年度⇒2020年11月～2021年10月）

発行2021年12月29日

SANSHIN
production of the precision parts

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です
®環境省
エコアクション21
認証番号0000568

三鎮工業株式会社

目　次

【１】会社の概要　1ページ

【２】環境経営方針　2ページ

【３】環境経営目標　3ページ

【４】環境経営計画　3ページ

【５】環境経営目標の実績　4ページ

【６】環境経営計画の取組結果とその評価　4ページ

【７】代表者による全体評価と見直しの結果　7ページ

【８】次年度の環境経営目標及び環境経営計画　7ページ

【９】環境関連法規への違反、訴訟等の有無　8ページ

【１】会社の概要

（1）　事業所名及び代表者名

サンシンコウギョウ　カブシキカイシャ
三鎮工業株式会社

代表取締役社長　　ヤマダ　ヒロシ
山田　浩司

（2）　事業所住所

〒205-0023　東京都羽村市神明台4-10-10

（3）　環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者	代表取締役社長	山田　浩司
担当者	環境管理責任者	山田　浩司（兼任）
連絡先	電話番号	０４２－５１３－０７１８
	FAX番号	０４２－５１３－０７１９
	E-mail	info@sanshin-i.com
	ホームページURL	https://sanshin-i.com
	facebook	https://www.facebook.com/sanshinkogyo/

（4）　事業の内容

光学機器、空調機器、医療機器、自動車、カーナビ
デジカメ、モーター等に使われる精密金属部品の挽物加工

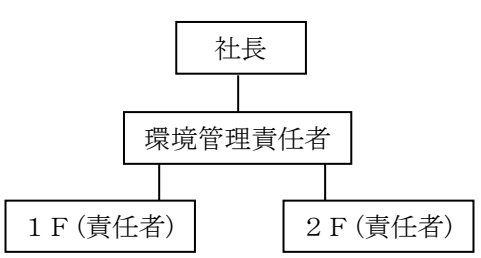
（5）　事業の規模

従業員数：25名
敷地面積：1,652.90㎡
建物面積：1,800.37㎡（2019年4月に工場を207.9㎡増築）
売上額(税抜)：1,270百万円 ※2021年10月決算
→ 製 品 売 上 高：1,009百万円
→ 切 粉 売 上 高：　261百万円

（6）　認証・登録の範囲

全社
全活動（金属機械加工）

（7）　環境実施体制



【２】環境経営方針

環境経営理念

私たちは、エアコンや自動車等の小径精密切削部品を製造する事業活動において常に改善活動を行うことで省資源、省エネを推進し、時代と共に多様化するお客様のニーズに柔軟にお応えできるよう取り組んでまいります。

そして、皆様に「信用される会社」「必要とされる会社」であり続けられるよう努力を重ねてまいります。

行動指針

1. 私たちは、全ての事業活動において生じる、環境への負荷を低減するために環境経営システムを確立し、環境活動の継続的改善を行います。

2. 私たちは、全ての部門で二酸化炭素排出量の削減、購入電力の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質使用量の削減、そして自らが生産・販売する製品の環境性能の向上及びサービスの改善について取り組みます。

3. 私たちは、環境に関する法律、規制、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守し、地球環境との調和、並びに汚染予防に努めます。

4. 環境経営方針は、全ての従業員、及び当社に関わる人々に周知され、環境保全活動推進への意識を高め、よき地域住民として地域社会に貢献します。

5. 環境経営方針は、エコアクション21の環境経営レポートの一部として、広く一般に公表します。

制定　2006年1月16日
改訂　2019年1月25日

代表取締役社長
山田浩司

【３】環境経営目標

昨年度より2017年度版ガイドラインに則った新しい取りまとめ表にて算出した数値を基に環境経営目標を設定している。

	環境目標	目標値
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※	過去2年度の月平均以下 14.73［kg-CO2 /売上百万円］
1(2)	購入電力の削減	過去2年度の月平均以下 1,172.48［kWh /売上百万円］
2	廃棄物等排出量の削減	過去2年度の月平均以下 6.89［kg/売上百万円］
3	水の使用量の削減	過去2年度の月平均以下 373.75［ℓ /売上百万円］
4	化学物質使用量の削減	過去2年度の月平均以下 6.84［kg/売上百万円］
5	製品及びサービスの向上 改善提案件数	40［件/年］ （うち有効提案件数 20［件/年］）

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 0.000kg-CO_2/kWh（プレミアムグリーンパワー㈱）

【４】環境経営計画

1(1)、二酸化炭素排出量の削減

●エコドライブを意識する
●安全運転を心掛ける（急ブレーキ急発進をしない）

1(2)、購入電力の削減

●不要な電気等の電源オフ
●デマンド監視装置による節電
●営業日の調整（受注と生産数量を管理し、無駄な休日出勤を減らす）
●新たな省エネ策の検討と実施
●エアコン設定温度の順守

2、廃棄物等排出量の削減

●ごみの分別の徹底
●ウエス使用枚数の抑制
●廃液の削減　※(4)化学物質使用量の削減と同じ
●新たなゴミ削減策の検討と実施

3、水の使用量の削減

●個人目標の設定・掲示
●個人目標の達成度確認
●製造工程（バレル作業）での使用水のムダ防止

4、化学物質使用量の削減

●使用時以外は、洗浄機の電源をおとす（蒸発抑制）
●廃液を蒸留し再利用する

5、製品及びサービス向上

●改善提案の提出呼びかけ
●改善提案賞の表彰

【５】環境経営目標の実績（2020年11月～2021年10月の月平均値）

◎ 目標達成　○ 詳細項目を最低1つは達成　× 目標未達成
→詳細は【6】参照

	環境経営目標	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO_2/売上百万円]	14.73	10.19 [kg-CO_2/売上百万円] 目標値－30.9%	◎
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1,172.48	893.1 [kWh/売上百万円] 目標値－23.8%	◎
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	6.89	6.88 [kg/売上百万円] 目標値－0.1%	◎
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	373.75	271.39 [ℓ/売上百万円] 目標値－27.4%	◎
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	6.84	5.69 [kg/売上百万円] 目標値－16.8%	◎
5	製品及びサービスの向上改善提案件数[件]	40 (うち有効提案件数 20)	37 [件](33[件]) 目標値－3 [件](＋13 [件])	○

※購入電力の排出係数 ⇒ 0.000 kg-CO_2/kWh

計算根拠
◆二酸化炭素総排出量：12,185.92 kg-CO_2
◆購入電力総量：1,095,902.00 kWh
◆廃棄物総排出量(有価物以外)：8,289.30 kg(一般廃棄物:3,423.30 kg ／ 産業廃棄物:4,866.00 kg)
◆水の総使用量：319,500 ℓ
◆化学物質総使用量：7,000 kg
◆原単位で使用する総売上高は、製品＋切粉売上のみ：1,240百万円
⇒月々原単位にて算出し、それを平均した数値を使用

【６】環境活動計画の取組結果とその評価

（2020年11月～2021年10月）

1(1)、二酸化炭素排出量の削減

◎　2018年度、2019年度と営業車を1台ずつ購入したが、利用者のエコドライブや同じ方面の取引先を同じ日に回るスケジュール管理の結果、ガソリンによる二酸化炭素排出量は微増にて抑えられている。

◎　昨年度までは長時間の夜勤労働者がおり、シャワーを使用することがあったが、今年度は短時間の夜勤アルバイトへ変更。結果ガス使用量が減少した。

年間二酸化炭素排出量[kg-CO_2]

	2018年度	2019年度	2020年度	昨年度比
ガソリン	11,357.14	11,640.99	11,737.56	＋0.8%
ガス	373.84	503.63	448.36	－10.9%
総排出量	11,730.98	12,144.62	12,185.92	＋0.3%

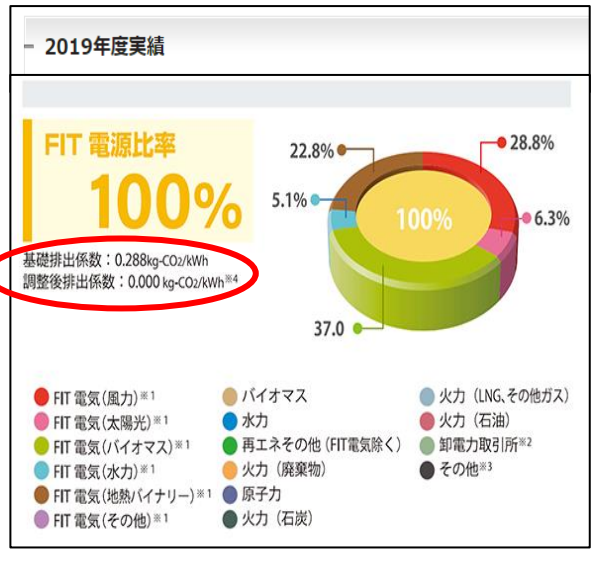
⇒　目標は単位量あたりの大きさとなっているため、売上が飛躍的に増加した今年度は目標を大きく下回ることが出来た。売上の伸びに対し、実際のエネルギー使用量を低く抑えられた結果だと判断する。

1(2)、購入電力の削減

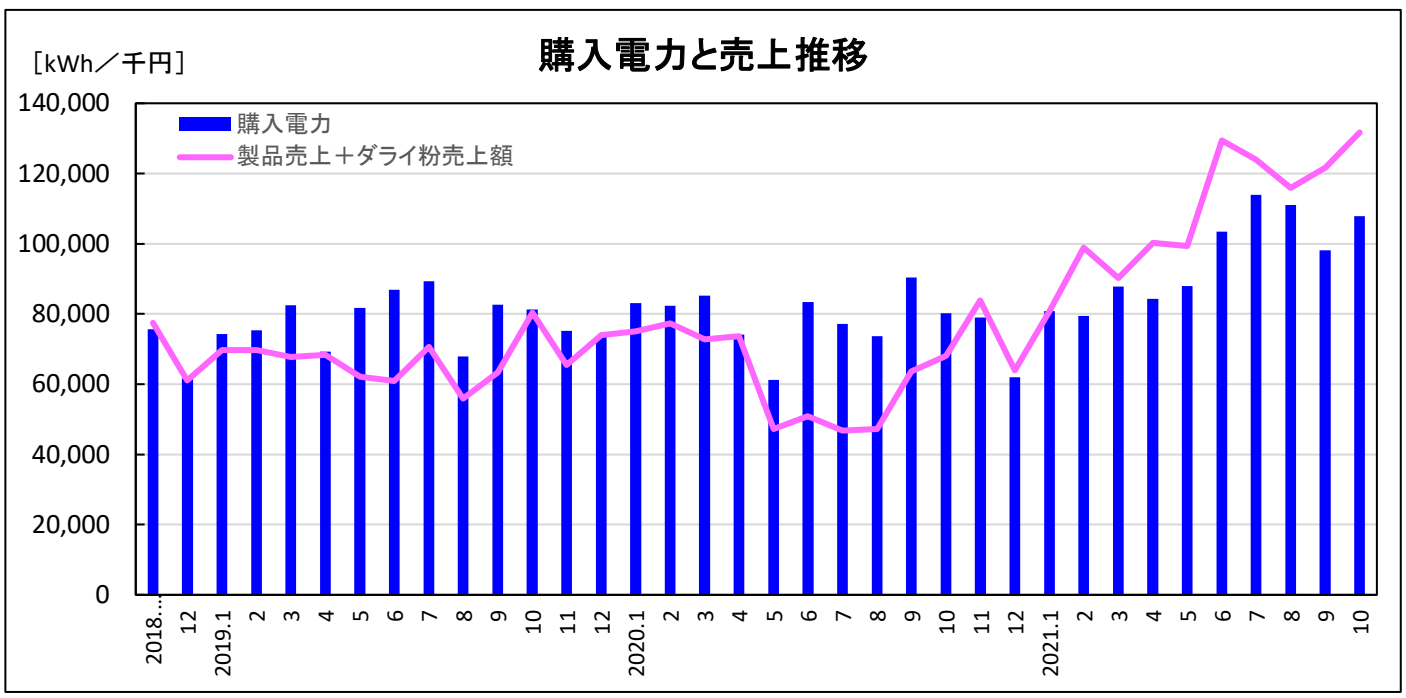
2017年9月より再生エネルギーを活用した電気(右図参照)を利用することで、電力消費による二酸化炭素排出量が 0 kg-CO_2となっている。
電力料金のみを考えるのであれば、他社の方が良いのかもしれないが、環境に配慮した会社でありたいので、乗り換えずに継続利用している。

また、二酸化炭素排出量が0であったとしても、電気の浪費は良くないということを念頭に置き、購入電力の削減にも努めている。

(次頁へ続く)



◎　エアコン使用が高くなる夏場は売上グラフより購入電力グラフが上回ることもあるが、購入電力の大半をNC自動旋盤が占めている当社では、購入電力と売上（製品＋ダライ粉）額は基本的に連動している。
　その中でも特に今年度は、売上グラフの上に購入電力グラフが目に見えて突き出ること無く、理想的な形で推移することが出来た。



◎　生産管理システムを利用して受注量と生産数量を管理し、例年は全員取るで計画年休日を創出していた。しかし、今年度は受注量の急増に伴い、GWの休日出勤日や夏季休暇の分散取得等、稼働機械台数や従業員の出勤日を柔軟に調整し、対応することが出来た。

⇒　結果、目標である単位量あたりの購入電力の削減値を大幅に達成することに成功した。

2、廃棄物等排出量の削減

○　新入社員が増え、ゴミの分別がキチンと出来ていない様子が見受けられたため、ゴミの掲示を見直し、全従業員に対し再指導を実施。それに伴い、燃えるゴミの抑制、ゴミの資源化に繋がった。
　また、産業廃棄物である廃プラスチックにおいても、2018年度590kg、2019年度910kgと約1.5倍となってしまったいたが、今年度は686kgと削減することに成功した。

○　昨年度、ウエスの使用量が問題となったため、現場リーダーに削減を提案したが最初は上手くいかなかった。そこで、5S意識の高い従業員を担当者に任命したところ、その月よりウエス使用料が2割削減された。

△　洗浄液の廃液については、製品生産数が昨年度比1.2倍（約500万個増）だったのに対し、1.4倍と増加傾向にある。しかしこれは、夏以降製品に変色するものが発生したため、従来より早めに洗浄液の交換を実施するというやむを得ない理由での増加となっている。

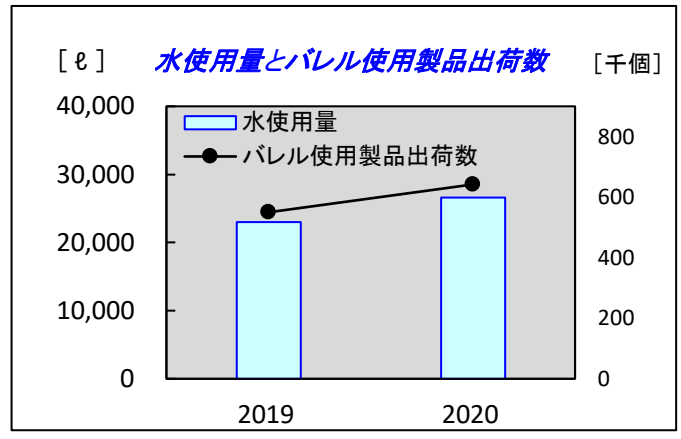
⇒　洗浄液の廃液についてはやむを得ない増加となっているが、ゴミの分別やウエスの使用方法については、初心に帰ることで大きな改善が見られた。結果として、目標値ギリギリではあるが達成することが出来た。

3、水の使用量の削減

○　今年も個人目標の掲示を継続し、節水に取り組んだ。目標に掲げられた内容はほぼ達成されていて問題なし。

○　水を使用するバレル作業が必要な製品の出荷数が昨年度比16.7%増となっており、それに伴って水使用量も15.5%増となっている。

⇒　個人目標による1人ひとりの節水意識と、バレル作業者の無駄のない作業により、目標を達成。
　現在、バレル作業は1人の従業員が専門で行っているが、体調不良等で別の従業員が作業をした際にも同水準の作業が出来るよう、来年度は作業手順書を作成する。



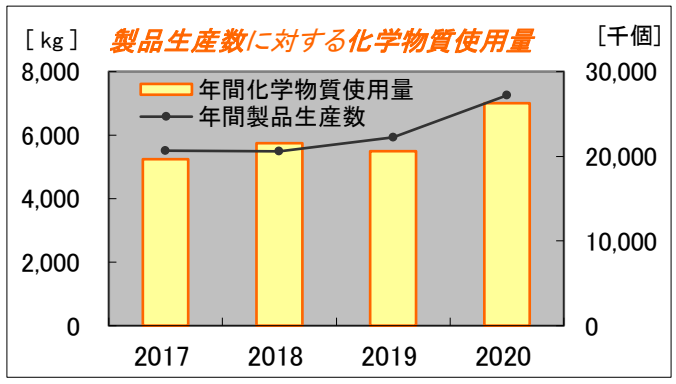
4、化学物質使用量の削減

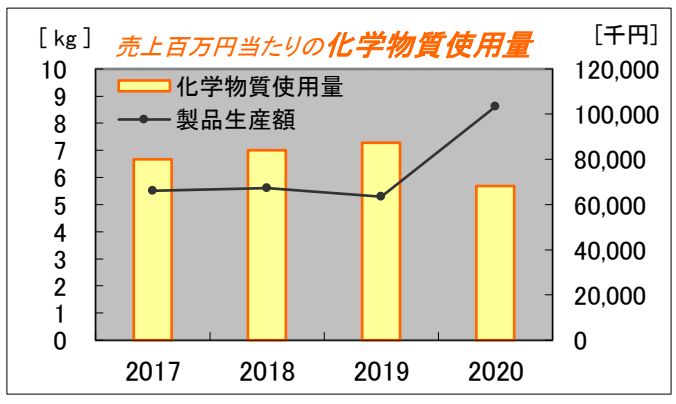
◎　洗浄機使用時以外、電源をオフにすることは徹底されていた。

◎　再利用できる廃液はそのまま処分せず、蒸留後に再利用されていた。

○　生産数量の増加に伴い、製品の洗浄に使用する化学物質の使用量も増加している。(右上グラフ参照)また、『2.廃棄物等排出量の削減』の3項に記載した通り、従来より洗浄液を早めに交換し始めたことも増加の一因である。
　これに関してはやむを得ない増加と考えている。

⇒　予定通り、従来の活動を維持しつつ、売上が回復したことで目標達成となった。来年度は、洗浄後の製品変色の原因を突き止め、最適な洗浄液交換頻度を見極めることで、少しでも長く洗浄液が利用できるよう努める。



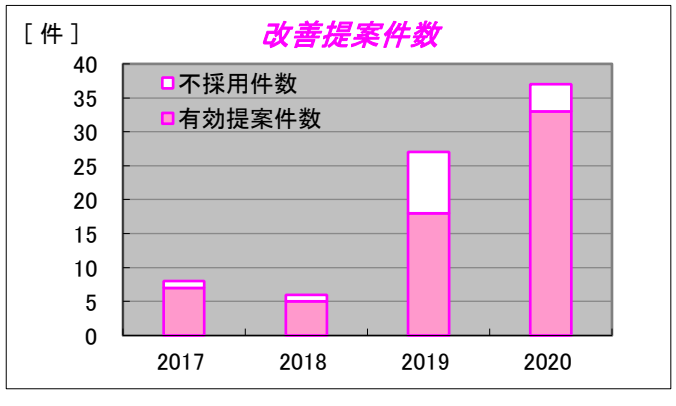


5、製品及びサービス向上

◎　年に3回ある評価制度と合わせて改善提案書を提出することが、定常となりつつある。

○　以前は外国人からの提出がほぼ無い状態であったが、今年度は数名からの提出があった。改善提案書は、会社へのメリットだけでなく、提出者本人の日本語の勉強にもなるため、その点をアピールしていきた

◎　賞与に合わせた年2回の表彰についても、昨年度より採用件数が増えたことで受賞人数も増加し、さらに活気が出てきたように感じる。



⇒　2018年度までの数年は、改善提案数が10件を超えなかったが、昨年度より評価制度と組み合わせたことで大きく改善された。さらに、今年度は採用率も向上し、より良い制度へと変化してきている。
　また、社員の37.5%が外国人労働者となり、外国人無しでは営業できない状況となっている今、外国人労働者がより働きやすい環境となるような改善提案も求めていきたいと思う。

【７】代表者による全体評価と見直しの結果

一昨年度までの7年間は右肩上がりで売上高が増加。昨年度はコロナの影響で少し足踏みをしてしまったが、今年度はそれを巻き返すかのような売上の急増となった。過去に経験をしたことの無い受注量であり、社員を7名、パートタイマーやアルバイトを5名増員した。 しかし、受注増による急な増員のため、受注をこなすための業務育成ばかりに気を取られてしまい、基本的なゴミの分別等の指導がおざなりになってしまった。その結果、作業場も雑然としてしまい、業務での小さなミスの連鎖を引き起こしているように感じられた。

そこで、一度初心に立ち返り、ゴミの分別の徹底、3Sの徹底から再度指導することで、業務に追われてバタバタとしていた従業員が落ち着きを取り戻し、小さなミスの削減にも繋がった。

今年度は本当に忙しく、計画年休を返上し、GWの休日出勤や夏季休暇の分散取得等、過去にない対応も迫られたが、普段から生産管理システムを利用し、受注量と生産数量の管理を行っていたため、従業員は柔軟に対応してくれたように思う。

目標に対する結果も、売上百万円当たりという原単位の目標にしていたため、各種削減目標について全て達成することが出来た。しかも、ただ売上が伸びたから達成…というだけではなく、各目標に向かって小さな改善を積み上げたことで、大幅な達成を可能にしたのだと感じている。

来期はさらに受注量が増えることが見込まれており、春には第2工場も開業予定である。そのため、今年度同様、社員等の採用を進めることとなるが、今年度の反省点を活かし人材育成を行うことで、環境経営目標の達成を目指す。

【８】次年度の環境経営目標及び取組内容

≪環境経営目標≫

	項目	2020年度 実績	2021年度 目標	2022年度 目標	2023年度 目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO_2/売上百万円]	10.19	10.09	9.99	9.88
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	893.10	884.17	875.24	866.31
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	6.88	6.81	6.74	6.67
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	271.39	268.68	265.96	263.25
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	5.69	5.63	5.58	5.52
5	製品及びサービスの向上改善提案件数[件]	37 (うち有効なもの 33)	40 (うち有効なもの 35)	50 (うち有効なもの 40)	60 (うち有効なもの 50)

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 0.000kg-CO_2/kWh

・コロナの影響もなくなり売上が急増した今年度を、目標の基準とした。
・第2工場においては、1から数値を把握することから始める。

≪取組内容≫

前年度より継続して改善提案に力を入れてきたが、部門リーダーに改善指示を出すのではなく、部門リーダーに改善内容に合った改善リーダーを任命してもらうことで、より効果的な改善が見出されることが分かった1年であった。

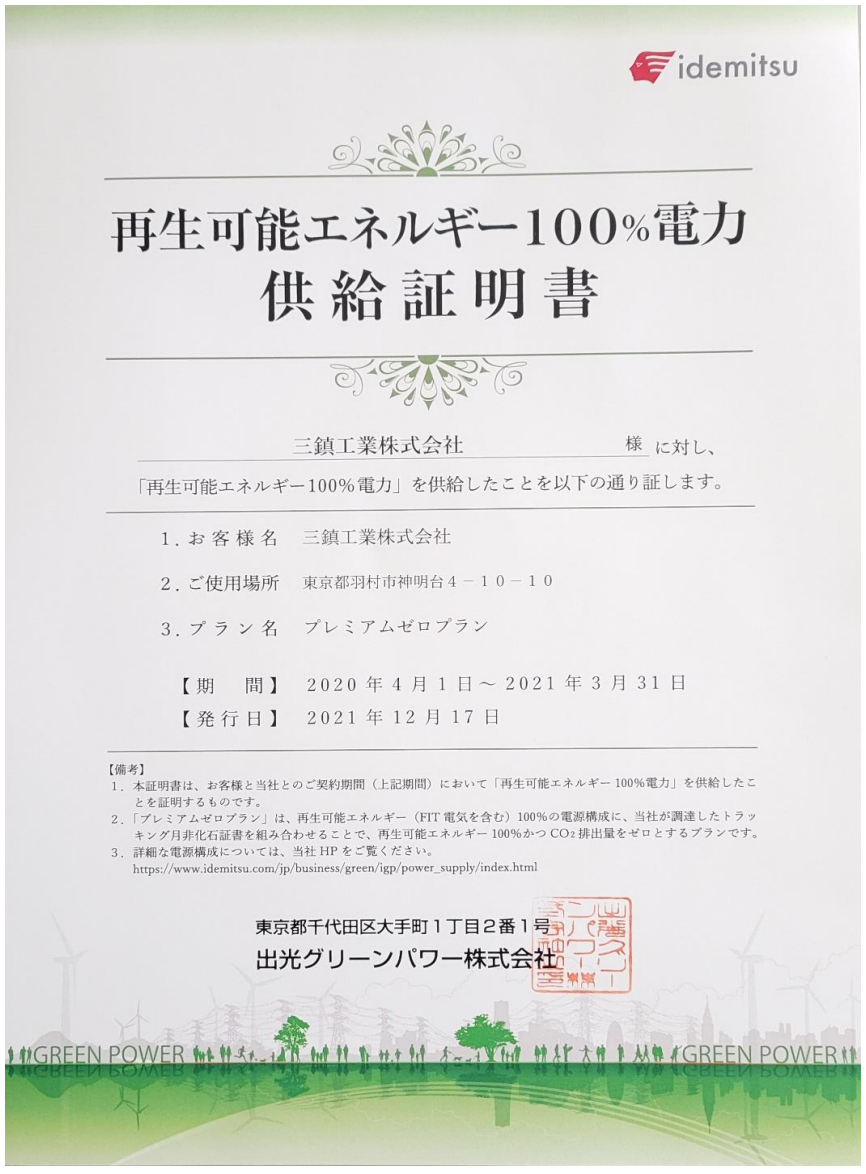
よって、来年度も増える人員を適材適所でリーダーとすることで、新しい改善方法が見付けられるのではないかと考えている。

また、毎年度取り組んでいる環境経営活動で継続すべきものは継続し、今年度高めた従業員のエコ意識が薄れないよう努めていく。個人目標も見直しと再設定、掲示をすることでお互いのエコ意識を高めあい、各種排出量が無駄に増えることを抑制する。

【９】環境関連法規への違反、訴訟等の有無

確認項目		遵守結果
法律違反の有無	1.廃棄物の処理および清掃に関する法律	2021年12月現在違反無し
	2.羽村市美しいまちづくり基本条例	2021年12月現在違反無し
	3.都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 （騒音規制法・振動規制法）	2021年12月現在違反無し
	4.東京都火災予防条例（消防法）	2021年12月現在違反無し
	5.化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	2021年12月現在違反無し
	6.特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	2021年12月現在違反無し
	7.使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 （小型家電リサイクル法）	2021年12月現在違反無し
	8.使用済自動車の再資源化等に関する法律 （自動車リサイクル法）	2021年12月現在違反無し
	9.フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 （フロン排出抑制法）	2021年12月現在違反無し
	10.顧客要求事項(RoHS指令，REACH規制等)	2021年12月現在違反無し
訴訟の有無	環境関連訴訟	2021年12月現在違反無し

※関係当局よりの違反などの指摘は、2006年1月の認証・登録以降ありません。



idemitsu

再生可能エネルギー100%電力
供給証明書

三鎮工業株式会社　様 に対し、
「再生可能エネルギー100%電力」を供給したことを以下の通り証します。

1．お客様名　三鎮工業株式会社
2．ご使用場所　東京都羽村市神明台４－１０－１０
3．プラン名　プレミアムゼロプラン

【期　間】　2020年4月1日～2021年3月31日
【発行日】　2021年12月17日

【備考】
1．本証明書は、お客様と当社とのご契約期間（上記期間）において「再生可能エネルギー100%電力」を供給したことを証明するものです。
2．「プレミアムゼロプラン」は、再生可能エネルギー（FIT電気を含む）100%の電源構成に、当社が調達したトラッキング月非化石証書を組み合わせることで、再生可能エネルギー100%かつ CO_2 排出量をゼロとするプランです。
3．詳細な電源構成については、当社HPをご覧ください。
https://www.idemitsu.com/jp/business/green/igp/power_supply/index.html

東京都千代田区大手町１丁目２番１号
出光グリーンパワー株式会社

GREEN POWER